

「第1回 北九州市次期教育プラン検討会議」における主な意見

1 こどものウェルビーイングの確保

国の計画には、日本型のウェルビーイングとして「調和と協調」とあるが、他者と対等な関係でつながり、協働するためには、自己受容と自己肯定が前提。また、こどもは大人に非常に忖度するので、協調の方が強調されないよう、よく注意すべき。こどもに何の懸念も与えず、大人が徹底的にこどもの意見を聞く姿勢が必要。(窪田構成員)

- 「安心してこどもが話せる」という部分に重きを置くと、こどものウェルビーイングが向上する。(友納構成員)

2 未来を創る能力・レジリエンスの確保

高専のロボットコンテストでは、問題発生時に学生がチームで協働して解決するプロセスが重要。単に挑戦するだけでなく、失敗できる場を提供することが重要。(鶴見構成員)

3 安全・安心な居場所づくり

北九州市の就学相談会の教職員は心理的安全性が高く、本市の教育現場の良い点・北九州らしさである。この点を資料に入れるなら「こどもの意見の尊重」「こどもの違いの理解」に尽きるので、「安全安心な居場所」のところなどに心理的安全性を入れるとよい。(友納構成員)

「安全安心な居場所」というワードはよいが、「安全」と「安心」は分けて考えるべきであり、文科省も同様の見解。また、こどもがどのように安全を感じるかという合意形成にこどもの視点を入れると、安心につながっていく。(宮口構成員)

ベンチャーでは、発想としては新しいことをやるが、社会に実装するためには協調性が重要。人と違う意見を言えるためには、「安心感」があることが不可欠。(下岡構成員)

4 教職員のウェルビーイングの確保

「先生がこれに向かって仕事をすればいい」ということをわかりやすくするために、ある程度絞り込むことが、先生のウェルビーイングに対して非常に重要。(眞鍋座長)

- 教職員のウェルビーイングを高めるには、学校にさまざまな人材が結集し、共に子どもの教育を担う体制が必要。(窪田構成員)

5 北九州市ならではの視点など

北九州市の発展に教育は大きく関係しており、こどもたちが「地元愛」の観点を学んで心に持てるよう、育てていきたい。(上田構成員)

「環境教育やSDGsの観点で、豊富な実体験ができる」という北九州市の強みを生かして、こどもが安心して自分のことを語ることができ、その体験を踏まえて自分軸を整えるという視点を、プランに盛り込めるとよい。(泉構成員)

教室に閉じることなく、地域に入りながら社会の中で学ぶという経験学習と、それを言語化できる能力が非常に重要。本市はESDが進んでおり、ヒントになりうる。(眞鍋座長)
総花的でなく、北九州市としてどうありたいか、北九州市だからこういう教育が受けられるというスタンス・アクセントがあるプランにしてほしい。(上田構成員、下岡構成員)
今回、こどもの意見をしっかり聞くことが強調されているが、こどもの伝える力を育てる必要がある。その手だてをプランで実現するため、既に構築されている「北九州子どもつながりプログラム」の体系的実施を位置づけることが重要(窪田構成員)